

「800字文学館賞」のご縁

野瀬 隆平

郵便受けに白い封書が入っていた。

最近、めったに無いことだと思いながら、差出人を見るとNとある。あの滋賀県の人だと、十年近く前の記憶が甦る。

企業OBペンクラブには会員の作文技術の向上を目指して、800字で文章をまとめる勉強会がある。そのころ会の幹事役を務めていて思いついたことがある。自分たちの書いた文章だけで勉強するのではなく、対象を広げ会員以外の人たちからも同様の文章を募集してはどうかということである。企画書にまとめて提案したところ、幸いその企画が認められ「800字文学館賞」として作品を公募することになった。こうして「賞」が出来たのは2009年のことであるが、Nさんは、第五回（2013年）の最優秀賞の受賞者である。

第一回の最優秀賞に選ばれたのは、大阪に在住するH女史である。年末に東京で開催されたクラブの創立20周年の記念パーティーにも、ご主人と共に上京して出席されることとなったので、その場で授賞式も行われ、名誉会長であった深田祐介氏から賞を授与された。

後に会員となったHさんは住まいの関係で、クラブの活動に直接顔を出す機会は少なかったが、最近、開催された文章の勉強会がZoomによるものであったこともあり、徐々に参加された。予めこちらで用意していた授賞式の写真を画面に映すなどして、当時のことをお互いに懐かしく思い出していた。

正にその同じ日に、Nさんから手紙が届いたのだ。何年も音信が途絶えていただけに、その偶然にただ驚くばかり。「800字文学館賞」があったればこそである。

余談ながら、この「800字文学館賞」を公募のするにあたって危惧したのは、応募が沢山あるかどうかであった。しかし、公募を知らせる雑誌に掲載した効果であろうか、300編を超える作品が寄せられた。中にはイギリス、カナダ、スウェーデンなど、海外からの応募もあり、文章を書くことに、いかに多くの人たちが関心を持っているのかを改めて認識した。

この文学館賞は、2011年の東日本大震災の年には、特別に三回にわたって震災に遭われた方々の体験談を語る作品の募集も行った。

この公募も七年間続いたが、2015年の第七回を最後として終えることになった。色々事情があったとは思いますが、発案した者としては大変残念に思っている。会員以外の人たちとの交流の接点であり、新しい会員の獲得にも寄与すると考えるからである。